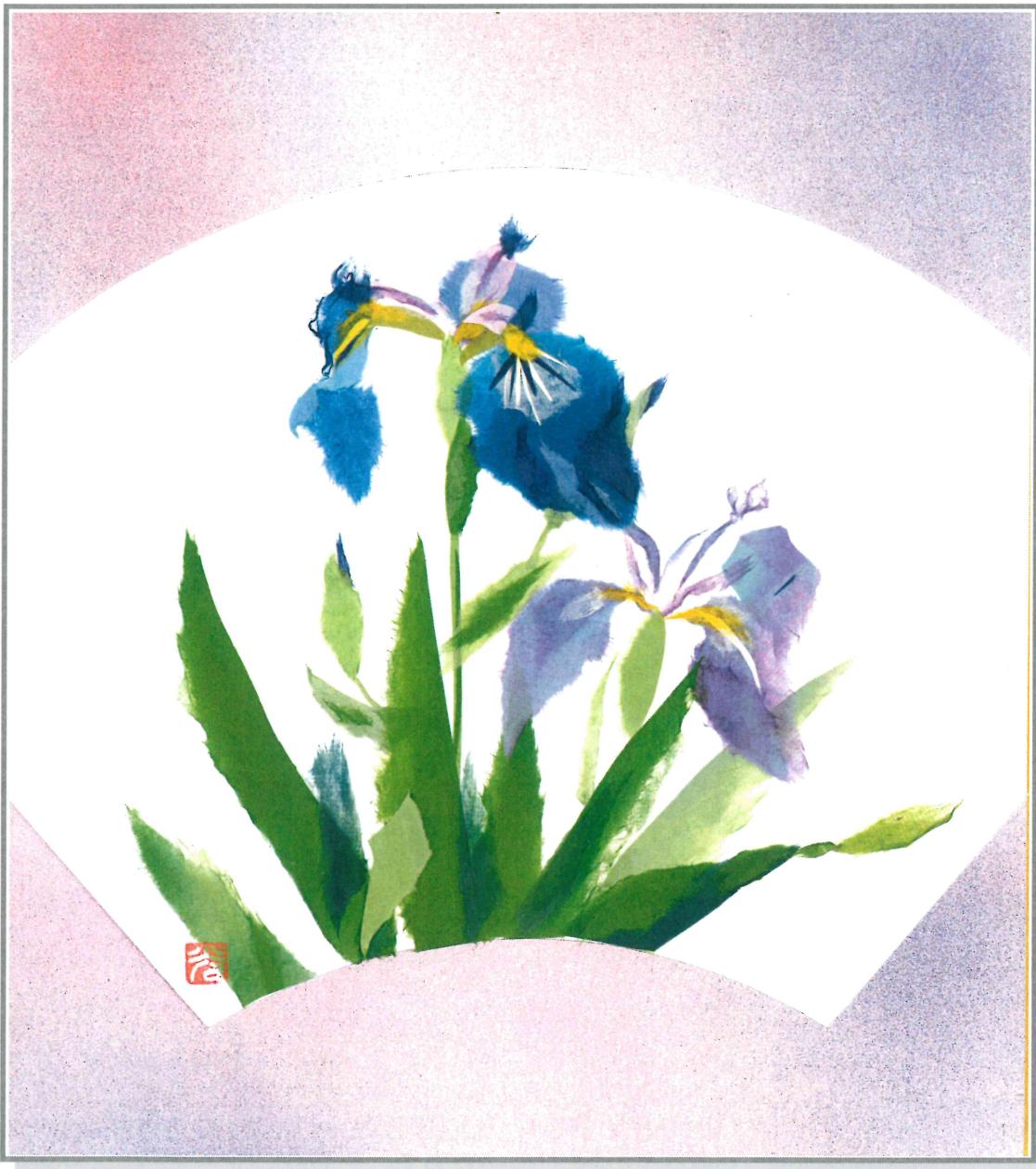


全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

第54号(平成28年5月号)



鳥の鳴く谷戸に一叢花しようぶ（直人）
やと
むら

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局 鈴木 正之
〒140-0014 東京都品川区大井1-54-6 いぶき学院内
TEL:03-5743-7458 FAX:03-5743-7459
Mail:center-office@shijuku.net

理事長 仲野十和田
TEL:03-3963-5572
広報部長 大住 明敬
TEL:048-957-8608

新旧理事長リレーコラム From Yuguchi to Nakano



『次なる世代への架け橋』

湯口謙司（香川県・湯口塾）

この『次なる世代への架け橋』という言葉はちょうど4年前に私が理事長になった年、平成24年5月号広報のタイトルとして使わせていただきました。ご存知のように、私塾ネットは2001年に「全塾連」、「PTF」、「日私会」の三団体が合併して設立された全国組織の団体です。それぞれ昭和35年～、38年に誕生した由緒ある組織です。設立にあたっては当時の理事長の山口先生、安藤先生、梶原先生のみならず、後に私塾ネットとなって活躍される谷村先生、鈴木先生、仲野先生も結成前の準備会から参加されています。また佐藤先生、加藤先生など多くの先生方の協力で現在があります。ただ、本当に残念なのはその合併の中心的役割を果たし、初代の理事長として私塾ネットの礎を築いて頂いた山口先生が昨年逝去されたことです。私たちの多くは山口先生から直接的、間接的に教えを受けています。私たち一人ひとりがその志を受け継ぎ、子供たちの成長を手助け出来、信頼される塾であり続けたいと考えています。

私塾ネットとしては設立十五年ですが、塾団体としては五十年を越える歴史があります。長い歴史の中で、会員の一部は廃業された塾もありますが、二代目の塾長が活躍されている塾もたくさんあります。私の所属しているエリア四国だけでも7塾が二代目の塾長として頑張っておられます。また、私塾ネットセンター

よろしくお願いします

仲野十和田（東京都・ナカジュク）

4月17日の代表者会議にて、第5代理事長に任命されました。大役にとてもプレッシャーを感じておりますが、皆様のお力を借りしながら一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。思い返せば初代故山口理事長を始め、4人の理事長の下で12年間事務局長させていただいたことは、私の学習塾人生に大きな学びでした。関東の小さな塾団体（日私会）の事務局長だった私が、私塾ネット開設2年目に全国規模の事務局長になることは30代後半の私にとって、不安しかなかったと記憶します。そのような中、故山口恭弘先生にエリア中国の定例会のお誘いを受け、その後北川先生や河濱先生、田中弘樹先生の塾を訪問させていただき、「もう関東は発信地ではない。これからは地方から学ばなくては…」という意識を強く持ったことを覚えています。

さて、話は変わりますが、第15回私塾ネット全国研修大会の講演者としてお呼びした吉藤健太朗氏（26歳）と初めてお会いしたのは、昨年10月。毎月行われる経営者の勉強会（板橋区）で講師とし

には渡辺代表率いるジュニアの会があり、お互いの連携を深めています。

さて先日、4月17日の代表者会、全国研修大会にて、私は無事に理事長としての大役を終えることが出来ました。皆さま方のご協力、本当にありがとうございました。そしてこのタイトルにあるように次なる世代の仲野十和田氏に新理事長を引き渡すことが出来ました。仲野先生は私と比べて一回り以上若い塾長ではありますが、その塾歴は30年を越え、ナカジュクという素晴らしい学習塾を創り、運営してきたキャリアがあります。また、私塾ネットの事務局長として長年にわたり手腕を發揮してくれました。私たちがこれから学習塾を運営するにあたり、きっと良い指標を示してくれることでしょう。

最後に5月29日（日）エリア四国の春の研修会が愛媛県松山市の道後温泉「ふなや」で開催されます。基調講演は私塾ネットの名誉会員でもある小宮山博仁先生による『これが本当のアクティブラーニングだ』です。先生は最近、はじめてのアクティブラーニング『社会のはてな？を探検』（童心社刊、全3巻）を出版されたところで、分かり易くその考え方を説いて下さるそうです。今回も関東からたくさんの方々が参加して頂けそうだと聞いています。「ふなや」は夏目漱石、正岡子規、虚子などが愛用した老舗旅館です。ゆっくりと温泉につかりながら語り合いましょう！『まだ間に合います！』参加ご希望の方は私塾ネット四国代表、寺嶋先生（0877-63-4639、学習院セミナー）までお問合せ下さい。

てお話をいただき、強い感動を受けました。その後懇親会でも近くにいることができたのですが、とにかく一人ひとりの話をしっかりと聴く姿にさらに感動を覚えました。彼が作る「オリヒメ」というロボットは、ロボットに人間の役割をさせるのではなく、人間と人間がコミュニケーションを取るためのツールでしかないと言われます。実際に寝たきりの人の代わりに出かけていき、ベッドの中で操作をするのですが、その人によって症状は違います。目しか動かない人、顎が動く人など、その人によって操作が違う状況を作り上げなくてはなりません。それは大変な苦労だと思いますが、正に一人ひとりを大切にした仕事です。そして、彼は言います「障害を持った方は、いつも誰かにしてもらうことが多く、感謝する立場にいます。でも、本当の幸せは感謝されることなので、そういうことを願ってオリヒメを作っています」と。

「人は誰かの役に立ったとき、本当の幸せを感じるのだなー」

私も少しでも多く、人のために動けるようにがんばりたいと思いました。

私塾ネットセンター代表者会議・新体制で15周年度スタート

平成28年4月17日、全国研修大会に先がけて代表者会議が開催されました。本年度は役員改選の年度にあたり、新理事長と事務局長および会計部長が会議の席で決められました。以下の表はその後調整後の本年度センター役員一覧です。

2016年度 私塾ネットセンター役員

役職	氏名	塾名	所在
会長	谷村 志厚	AIM学習セミナー	千葉県松戸市
副会長	湯口 兼司	湯口塾	香川県三豊市
副会長	鈴木 正之	いぶき学院	東京都品川区
理事長	仲野 十和田	ナカジユク	東京都板橋区
副理事長	関 志郎	関教育学舎	青森県むつ市
副理事長	中村 直人	中村学院	神奈川県川崎市
副理事長	楠山 敬志	楠山ゼミナール	徳島県東みよし町
副理事長	河浜 一也	学習共同体グループ	広島県広島市
事務局長	鈴木 正之	いぶき学院	東京都品川区
事務次長	渡辺 浩	人間教育渡辺塾	東京都北区
事務次長	長原 糸恵	のびのび学習塾	東京都練馬区
会計部長	鈴木 学	デザインオフィスズキ	千葉県柏市
会計次長	木谷 朝子	木谷塾	東京都品川区
会計次長	監物 一男	向学館	埼玉県さいたま市
広報部長	大住 明敬	聖学舎	埼玉県三郷市
広報次長	川口 順次	学びの森育心館	香川県高松市
広報次長	西本 雅明	パワーゼミ西本塾	広島県福山市
広報次長	小野 昭	小野塾	香川県丸亀市
広報次長	小林 昌宣	小林進学塾	北海道小樽市
広報次長	扇野 明弘	学習塾 TRM 登龍門	青森県青森市
涉外部長	川久保 博史	英数義塾	東京都墨田区
涉外次長	桂馬 辰尚	桂馬ゼミナール	東京都足立区
ネット管理部長	渡辺 浩	人間教育渡辺塾	東京都北区
ネット管理次長	中村 康彦	中村学院	神奈川県川崎市
研修部長	田中 宏道	LAPIS鎌ヶ谷	千葉県鎌ヶ谷市
研修部次長	柳田 浩靖	日米文化学院	千葉県八千代市
エリア活動推進部長	近藤 誠介	文化の森スクール	徳島県徳島市
エリア活動推進次長	松浦 重雅	教進セミナー	千葉県千葉市
監事	梶原 賢治	朝日学習館	埼玉県川口市
監事	加藤 実	総合教育研究会	東京都荒川区
顧問 涉外部	安藤 進理	桜学習会	東京都杉並区
顧問 広報部	平林 治	青雲塾	東京都足立区

■私塾ネットエリア・代表

役職	氏名	塾名	所在
北海道代表	入江 昌徳	札幌進学教室	北海道札幌市
東北代表	安藤 水無子	Andy's	青森県八戸市
関東代表	仲野 十和田	ナカジユク	東京都板橋区
中部代表	松本 紀行	チャレンジ学院	長野県下諏訪町
中国代表	佐藤 将紀	若竹塾	広島県東福山市
四国代表	寺嶋 謙次	学習院セミナー	香川県善通寺市
九州代表	林 芳子	Hayashi塾	宮崎県宮崎市

■私塾ネット・ジュニアの会

役職	氏名	塾名	所在
代表	渡辺 浩	人間教育渡辺塾	東京都北区
副代表	湯口 哲朗	湯口塾	香川県三豊市
副代表	柳田 浩靖	日米文化学院	千葉県八千代市

代表者会議報告

日時：平成28年4月17日（日）

13:00～13:45

場所：東京ガーデンパレスホテル

構員22名 出席18名（委任状出席4名）オブザーバー参加1名研修大会の前、全国各地から役員の方々に集まっていました。当日は風雨が強く交通網が乱れていたので、大変な思いをした方もいらっしゃいましたが、予定通り無事スタートしました。

議長 湯口兼司理事長

議題

第1号議案

平成27年度 事業報告及び平成28年度予定

第2号議案

平成27年度 決算報告

第3号議案

平成28年度 事業計画案

第4号議案

平成28年度 予算案

第5号議案 役員改選

*新理事長に仲野十和田が推薦、承認される。その場で事務局長に鈴木正之氏（いぶき学院）、会計部長に鈴木学氏（デザインオフィスズキ）を指名。

第6号議案 その他の項目

平成28年5月29日（日）

エリア四国主催研修会

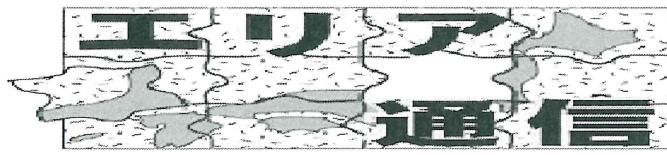
平成28年9月4日（日）

エリア東北主催研修会

第1号議案～第6号議案、全会一致で承認。

関志郎副理事長より代表者会議資料を事前に送ってもらうことで目を通しておきたい、研修会内容の相談や詳しい内容の告知をエリアにも早い段階でしてほしい（集客のため）と貴重な意見をいただきました。





エリア東北 代表 安藤水無子
(Andy's・青森県)

新生エリア東北

4月より渡部先生に代わって代表を務めさせていただることになりました、Andy'sの安藤水無子です。まだまだ関先生、渡部先生の後で学ばせていただきたいと思っていましたが、いよいよ出番だという声に押されてお引き受けしました。よろしくお願ひ致します。副代表（会計も兼務）には青森市の「ふくし英数教室」の福士明美先生にお願いして引き受けてもらいました。全国初の女性コンビです！

まずは9月にエリア関東との合同研修会を予定しています。関東以外からも是非たくさんの方にご参加いただければと思っています。

私が1997年に生徒5名から塾を始めて、来年で20年がたつということに先日気がつきました。人間で言えば成人式を迎えることになります。（自分の子どもは、この春ようやく下の子が小学校へ入学、上の子もまだ5年生。成人への道のりはまだ・・・）そんな年月がたった実感は全くないのですが、卒業生の顔を思い浮かべると確かに今年の中3生は19回生ということに！

1教室だけの小さな塾なので、開塾以来一度もチラシやDMを出したこともなく、在塾する生徒や、卒業した生徒の保護者の方々の口コミで生徒が集まっています。「子どもが幼稚園の時から塾に通うならAndy'sにしようって決めてました。」とお母さんが言って入塾してくれた生徒もいました。この時は大変ありがとうございました。また、畏れ多さに身が引き締まる思いもしました。

4月17日、ようやく八戸も桜が満開になろうかという日の朝、新幹線で東京へ向かい私塾ネット設立15周年記念大会に出席しました。今回の講演で吉藤氏がおっしゃっていた「学ぶことは自分のためではなく、人を喜ばせるためにするものだ。」という言葉は、偶然に私が面談で生徒や保護者に話していることばと同じでした。子どもを育てる目標は「社会の役に立つ人間に育てる」ということだと思います。「社会の役に立つ」ということは「誰かを喜ばせる」、「誰かを幸せにする」ということではないでしょうか。私自身、頑張らなければならないことがたくさんあると思いを新たにして帰っていました。まだまだ未熟ではありますが、これからよろしくお願ひ致します。



日本列島縦断 北から南から

エリア関東 代表 仲野十和田
(ナカジュク・東京都)

この度突然のことでしたが、エリア関東代表を引き受けさせていただくことになりました。理事長兼任ということで少々不安な部分もありますが、事務局長兼任の経験を活かし、今は気持ちを入れ替えて「頼まれごとは試されごと」を信条に前向きに取り組もうと思っています。大住前代表が若手を活躍させる場づくり取り組んでこられたので、引き続き総務部長の渡辺浩先生を中心に若い方々に活躍していただきたいと思っています。

さて、先日5月8日に早速研修会をナカジュク板橋教室で行ないました（参加者14名）。東京私塾協同組合の専務理事をされている長原糸恵先生も新入会員として初参加してくださいました。木谷先生と女性2人のご意見を頂けることはとても新鮮なことが多かつたので、そんな環境も大切にしていきたいと感じました。懇親会の席で鈴木正之先生が長原先生の飼っていた犬を娘さんと勘違いしてFacebookの友達になっていたことが判明し、大爆笑したひと時もあり、和やかなスタートができたと思います。

第84回定例会での鈴木氏講演報告

平成27年12月13日（日）『アパホテル板橋駅前』内会議室において、第84回定例会が開かれました。ネット関東では、日ごろいろいろお世話になっている、デザインオフィスズキの鈴木 学氏に「スピードと整理法、ITリテラシーを上げて脱情弱！」というテーマでご講演をお願いいたしました。仕事にクラウドを使って、作業の効率を上げていこうということです。ちなみに情弱というのは、「情報弱者」というネット用語？です。

メニューは、5つ。①メール ②スケジュール（カレンダー）③リマインダー（メモ）④電話 ⑤おまけ（パスワード管理）

①メールが仕事の5割にあたるくらいに重要。メールは、すべての端末で同期するIMAP形式を薦める。わからない人は、gmailを使う。docomoやauなどのキャリアメールは、仕事には使うな。しっかり管理しないといけない時期に来ている。迷惑メール対策は、SNS関係は、捨てアドレスを使う。仕事用のメインアドレスを大事にする。ホームページに文字でアドレスを書かない。メール収集ロボットに盗まれ、迷惑メールが来る。Faxはできればやめる。pdfファイルで添付しよう。保存・検索がきくため。

②Googleカレンダーを薦める。すべての端末で同期する。通知機能が便利。どこでも書ける。検索が利く。手帳と違いなくさない。ブラウザと連動している。紐付けされて、GoogleMapも使いやすい。全てApple製品を

使う以外は、Googleを使おう。

②メモ帳では、appleに入っているものを使ってい。to doリストもできる。Apple以外は、Evernoteが便利。利点は、クラウドのカレンダーと同様。どこでも確認・書き込みができる、通知がある、紛失しない。

③電話では、iPhoneの人は、FaceTimeAudio一択。iPhone同士は世界中無料。それ以外は、楽天でんわ30秒10円。固定電話は、楽天でんわかSkypeクレジット1分3円22銭などを使い分けると、電話使用料を低く抑えられる。

④パスワード管理。鈴木氏はDropBoxにロックをかけて銀行のパスワードも載せているそうです。ただし平文で文字列全部は書かない等注意する。一般的には、薦められない方法だとか。パスワードは、8文字以上にしよう。

セキュリティソフトなど、いろいろと質疑応答があり、実践的なアドバイスをいただきました。大変有意義な講義をどうもありがとうございました。

当日の講演pdf http://dosuzuki.com/_ftp/151213.pdf
(文責: 中村直人)



エリア中国 西本雅明
(パワーゼミ西本・広島県)

今春の公立入試には、驚かされました。私の塾では入試直前に「大予言」という怪しげな講座を開いています。予想問題を作成し演習をするのですが、的中率が高くて人気の講座だったんです。しかし、今春は形式・内容ともに予想外でした。数年前から変革の兆候はありました、これほど変わるとは思いもしませんでした。おかげで受験生たちからは「先生、ぜんぜん違った。作戦通りにいかんかった。」と叱られました。来春「大予言」講座を開催する自信が今はあります。特に変化の大きかったのは「社会」です。問題文が長く、資料が多く、それらを読み取り考察する力が、今まで以上に必要です。もちろん記述が増えました。授業や、講座の内容を見直す必要があると感じます。学力検査の内容が公立中高一貫校の「適性検査」に近づいてきたと、個人的には思っています。先日、河浜先生主催の研修会で入試問題の分析会と対策を勉強してきました。そこには私と同様に迷える塾の先生方が大勢参加されていました。私塾ネット中国も5月は「高大接続改革に起因する一連の教育改革」という題で、広島なぎさ中学高等学校の角島校長先生にお越しいただき、お話を伺うことになっています。角島校長先生は教育改革に対する研究を早くから進められ、なぎさ中高の教育の中で実践なさっています。今回は2020年度の教育改革を概観していただき、新しい情報もご提供いただきながら、進む方向や変化についてお話ししてください予定です。9月の定例会でも教育改革について研修会をする予定で

す。

もう一つ話題を、中国地方の山間部や瀬戸内の島は過疎が進んでいます。山間部や島の公立小学校・中学校・高校とともに統廃合の危機に直面しています。福山市から車で1時間ほどの距離にある神石高原町では少子化と都市部への進学流出で、町内の子供たちの地元への進学は60%しかありません。学習塾も無い地域ですので、公立学校内に公設民営の塾を開くという過疎対策事業が始まりました。国からの補助事業だそうです。



エリア四国 代表 寺嶋謙次

(学習院セミナー・香川県)

私塾ネットエリア四国

新年度総会及び研修会のご案内

早春の候、皆様方におかれましては、ますます健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は、私塾ネット四国の運営に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、毎年恒例の『私塾ネット四国春(初夏?)』の研修会』の案内をさせていただきます。下記の内容をご確認いただき、会員の皆様はもとより、会員以外の皆様のご参加もお待ちしております。

【日 時】 平成28年5月29日(日)

総会受付 午後12:30より

総会 午後1:00~1:30

研修会受付 午後1:30より

研修会 午後2:00~5:30

【会場】 道後温泉ふなや

住所 愛媛県松山市道後湯之町1-33

TEL (089)947-0278 / FAX (089)943-2139

【参加費】

研修会のみ参加 1,000円

研修会+懇親会参加 8,000円

研修会+懇親会+宿泊(朝食付き)1,8000円

～プログラム～

[第一部] 私塾ネット四国支部総会

午後1:00~1:30

[第二部] 研修会

午後2:00~5:00

I 基調講演 小宮山博仁先生

『これが本当のアクティブラーニングだ!』

わかるようでわからない?

今話題のアクティブラーニングとは

II 分科会

[第三部] 懇親会 午後6:30~8:30

『どっぷり、じっくり語りあかしましょう!』

《お問い合わせ・お申し込み》

0877-63-4639…学習院セミナー(寺嶋)

日本民間教育大賞授賞式 記念講演会・祝賀会

私塾ネット名誉会員 小関清一先生受賞

平成28年3月26日

「私塾の歴史資料館」館長 佐藤勇治

平成28年（2016）3月23日（水）、東京・神田の学士会館において、日本民間教育大賞授賞式、記念講演会・祝賀会が開催されました。

記念講演会の第1部は、株式会社仙台進学プラザ代表取締役社長の阿部孝治氏、第2部は教育再生実行会議有識者委員・株式会社すららネット代表取締役社長湯野川孝彦氏が講演されました。

当日の民間教育大賞は次の4名の先生方が受賞されました。

（1）民間教育大賞最高功労賞 受賞者3名（50音順）

小関清一氏 全日本私塾教育ネットワーク名誉会員、全国私塾連盟元事務局長・副理事長、
公益社団法人全国学習塾協会 元理事・顧問

筒井勝美氏 公益社団法人全国学習塾協会・顧問、国際教育学会・理事、
英進館株式会社 会長兼館長

森 貞孝氏 全国学習塾協同組合（経済産業省認可）理事長、
株式会社日進研 名誉会長、私塾三田会顧問

（2）民間教育特別功労賞（没後、10年以内の故人）受賞者

奥山義則氏 株式会社札幌セミナー（練成会グループ）元代表取締役
2005年札幌国際大学非常勤講師、2006年7月心筋梗塞で死去。享年49歳



大賞受賞者4名と感謝状授与者全員での記念撮影。前列左より佐藤勇治氏、小関清一氏、森貞孝氏、奥山英明氏（代理）、奥山宗太郎氏（ご子息）、後列左より浅輪信子氏、谷村志厚氏、齊藤勝美氏、増澤空氏、安藤大作氏、森本一氏、坂田義勝氏



小関清一氏に表彰状を授与する谷村志厚氏。左隣りの佐藤勇治氏は小関氏に盾を授与する。

祝賀会Kテープルの仲間たち。
左より右へ慶應受験会代表
菅谷豊友香氏、私塾ネット
副会長鈴木正之氏、埼玉私
塾協同組合理事戸田敦子氏



日本民間教育
大賞祝賀会で
受賞者に祝辞
を述べる参議
院議員渡辺美
知太郎氏（選考
委員顧問）



ここでは、紙数の関係で、全日本私塾教育ネットワーク名誉会員 小関清一氏の略歴のみ簡単に記述し、その他の内容は写真で紹介します。

小関清一氏 大正15年（1926）11月16日生まれ。（この年の12月25日から年末まで昭和元年）

昭和27年6月13日	1952	台東区今戸1-22-3に青葉学習塾を創設
昭和29年7月15日	1954	台東区馬道（現、浅草4丁目）に分塾を開設
昭和33年1月15日	1958	華道部を開き、お母さん教室を開く
昭和35年12月8日	1960	「全国私塾連盟」の創設に貢献、発会式に参加
昭和42年3月15日	1967	千葉県柏市に分塾「柏教室」を開設
昭和46年5月23日	1971	全国私塾連盟の事務局長に就任
昭和53年4月23日	1978	全国私塾連盟の副理事長に就任
昭和58年5月8日	1983	全国私塾連盟の相談役に就任
昭和60年4月21日	1985	全国私塾連盟の顧問に就任
昭和63年10月3日	1988	社団法人全国学習塾協会の理事に就任
平成3年11月12日	1991	台東区長より町会役員表彰を受ける
平成4年6月15日	1992	開塾40周年記念を挙行。記念品を配布
平成6年4月1日	1994	社団法人全国学習塾協会顧問に就任
平成7年3月15日	1995	42年間続いた青葉学習塾を閉じる
平成28年3月23日	2016	日本民間教育大賞・民間教育最高功労賞受賞

なお、ご子息の2人は現在、足立区の公立中学校の校長としてご活躍中である。

今戸と私と、小関先生との小さなご縁

授賞式の当日、湯口理事長の代行として授賞式選考委員の打合せに行くと、小関先生への賞状授与役をとのご指示があった。小関先生が私塾ネット名誉会員であることへのご配慮であろうが、小関先生と私の小さな、不思議なご縁に改めて想いを致すこととなった。

今から45年も前のことである。私が大学2年生の頃の話だ。所属サークルの縁があつて、台東区今戸1丁目の町会事務所に住み込むことになった。町会の会合の記録をとり、回覧板を回し、毎月の町会費を集め。それが「学生書生」に与えられた「仕事」であった。寝泊りをする事務所は今戸神社の境内にあり、10坪にも満たない平屋のトタン屋根の「小屋」であった。夏は猛暑、冬は極寒という居住環境ではあったが、日々わざかながらもお小遣いをいただき、住いはただというのは、上京組の貧乏学生には有りがたい待遇であった。

月末になると町会費を集めて町内をまわった。その一軒に「青葉学習塾」があった。上の年表によると、当時小関先生は50歳を越えたばかりで、全塾連の事務局長就任直前の、油の乗られた頃であったと推察できる。

後年全塾連の皆さんと交流する機会が増え、小関先生とお会いすることができた。そのおり、実はかくかくしかじかことこの経緯をお話をすると、懐かしげに当時を回想され小さなご縁を喜んでいただいたのであった。

そして3月23日当日、およそ20年ぶりに小関先生とお会いすることになった。今年90才になられるという。かくしゃくとされてはいるが、果たして覚えておいでであろうか。自己紹介をすると、記憶をたどる表情をされにっこりとほほ笑まれた。昨年の山口先生のご逝去とは別な形ではあるが、戦後の学習塾の歴史に、またひとつ句読点がうたれた。そんな思いを実感する一日であった。（谷村志厚）



第14回全国塾長・職員研修会・設立15周年記念大会

『心安らぐ温かな時間』

～ハイテクよりも使いやすさと親しみやすさ～

時：平成28年4月17日(日)
所：東京ガーデンパレス

報告 ネット関東広報部部長
中村 直人（神奈川・中村学院）

2016年4月17日(日)に、御茶ノ水の東京ガーデンパレスにて、私塾ネット・第14回全国塾長・職員研修大会が催されました。当日は折からの低気圧通過の強風で、電車の遅延・運行一時停止等がありまして、ご来場に苦労されたかたもいらっしゃったようです。

さて、本年は私塾ネットの「設立15周年記念大会」ということで、すばらしい講演者をお招きして『心安らぐ温かな時間』というテーマでの開催の運びとなりました。この研修会を通じて、集いました地方の各支部の先生方・講師のかたがた、私学の先生のかたがた、協賛される企業のかたがたと、「教育の原点」を共有し親睦を深め、また21世紀に心の新しい地平線を切り開く仕事に挑んでおられる、若い吉藤健太朗氏のお話を聞き、私たちの足元である「学びの現場」にフィードバックされることを期待しております。任意団体として自由な私塾ネットの良いところを活かし、今後とも全国の真の教育を目指す仲間である私塾や学校、企業の方々と永く連帯していくことを願っています。

研修大会の第一部が、午後2時から、オープニング「15周年を迎えて」ということで始まりました。進行は、田中宏道先生(千葉:LAPIS鎌ヶ谷)です。内容は、以下のように続きました。

◇ 主催者御礼およびご挨拶
私塾ネットセンター理事長 湯口兼司先生(香川:湯口塾)。

昨年逝去された初代理事長山口恭弘先生のご冥福と、先日の熊本大震災でお亡くなりになられた方々へ、黙祷を捧げました。また本日の代表者会議で、新たに5代目理事長に仲野十和田先生(東京埼玉:ナカジュク)が選出されたことのご報告がありました。

◇ ご来賓のご挨拶:初めは、私立学校を代表いたしまして、東京私立中学高等学校協会 副会長の實吉幹夫先生。次代を生き抜くには、健康・英語・ITが大切。3月31日に高大接続の国からのまとめが出たが、具体的に何をやれとは書いていない。あまり改革改革とあせらず、四六答申を元にしっかり腰を落ち着けて生徒たちに接していく必要があるのではないか。これからの日本の教育は、主体性・多様性・協働性をキーワードとして進んでいく。というお話をされました。

◇ 次に私塾団体を代表いたしまして、全国学習塾協同組合副理事長の玉城邦夫先生(千葉:修学舎)。ユーモアあふれるお話がありました。先生は71歳ですが、フルマ



ラソンどころかウルトラマラソンを毎年おやりになる、超人です。しかしこの2年間で重い肺炎・骨折等で、医者からは並の老人ならとっくに死んでいると断言されたそうです。健康を過信していたことを大いに反省したこと。経営が順調だからといって塾においても過信は禁物。順風満帆な経営は長くは続かない。体力においても経営においても謙虚さが第一、というお話をされました。

配布資料確認の後、ネットの各地域の方を紹介し、私塾ネット恒例の名刺交換＆アイスブレークに突入。各グループに分かれて、自己紹介や最近起きた良いこと等を皆で語り合い、氷が解けるように、お集まりの方たちに打ち解け合っていただくという趣向です。会場に、拍手・笑いが溢れてきたところで終了。

その後15分の休憩に入りました。



私塾ネット15周年の記念講演が、午後3時15分より始まりました。今年は、吉藤健太朗氏にご講演をお願いいたしました。氏は、最近各テレビなどのマスコミに取り上げられ、青年版国民栄誉賞「人間力大賞」ほか10を超える受賞歴があり、AERA「日本を突破する100人」に選ばれるなど時の人でもあります。生徒や保護者の方々にも会場内に入って聴いていただきました。

吉藤さんが、風変わりなロングコートを身にまとい、さつそうと登場。現在29歳、奈良のご出身で、株式会社オリィ研究所代表取締役所長です。挨拶代わりに、まずはバラの創作折り紙を作り観客にプレゼント。折紙が好きで19歳のときに奈良文化折紙会を設立したそうです。こう書きますと、非常にアクティブな青年のように思われますが、幼少時から体が弱く小5～中3まで不登校で、精神的にも参り、引きこもりの状態となってしまい、勉強も運動も苦手だったそうです。当日も体調は、低気圧のせいであまり芳しくないとか。その状態から抜けるきっかけが、ロボットとの出会いだったそうです。お母様が、折紙できるならロボットも出来るだろう？ということで、勝手に関西地区の虫型ロボットコンテストに参加の申込をされたそうです。そこでなんと優勝。さらに翌年「ロボフェスタ2001」全国大会で準優勝。生まれ

て初めて人と競う体験をする。負けて悔しさもあったものの、ここで人生の転機ともいえる大きな出会いがあったそうです。それは、自称「生駒のエジソン」久保田憲司氏の一輪車に乗っているロボットを見て感激し、弟子入りを志願する。氏の勤めておられる、奈良県立王子工業高校に入学。ここでものづくりに励む。そこで研究から、画期的な車椅子が誕生します。重心が高く倒れやすい、前輪が小さく溝にはまりやすい、滑りやすい、段差が上れない、デザインがダサイ等今までの電動車椅子の欠点を、使う人からの視点で、傾かないようにジャイロセンサーを使い姿勢制御したり、タイヤホイールにアルキメデスのらせん状の突起を、センサーで段差を検知したら出して段差を上ったりできるようにするなど、新機構により克服しました。これがJSECの文部大臣賞など多数の賞を受賞し、世界最大のインテル国際科学技術フェアの日本代表となり、エンジニアリング部門第3位を受賞することになりました。

また、この大会で、自分の研究テーマに人生をかけているという、世界トップクラスの高校生たちと交わり刺激を受け、自分は何がやりたいのか、何に人生をかけるべきか、自分には何ができるのか、といろいろ考えたということです。

立派な車椅子が作れるなら、お年寄りやいろいろな人から、こんなものを作れるかとその他悩みごとの相談を多く受けるそうです。その中で、不登校・療養体験から、手や足が動かないという、身体的な問題と同じくらい、別に大きな問題があることに気づく。精神的なストレス・孤独感に苦しんでいる人々の存在です。現在1千万人の一人暮らしの高齢者・6万5千人の病気で学校に通えない子たちがいて、17万人の引きこもりがいます。孤独が鬱や飲酒などの原因になり、周囲の人々をも不幸にします。そのことが今後とも大きな問題になると感じ、人に会えないことによる寂しさからのストレスの解消に、人生をかけようと思ったのが、10年前でした。

そこで、人工知能を研究し、人を癒すロボットを作ったらどうだろうと考え、高卒後は、高専で人工知能の研究をしていました。しかし、折り紙のボランティア活動において、人と人が折り紙を通じて楽しそうにしているのを見て、「人とロボット」ではなく、「人と人をつなぐロボット」が良いのではないかと考えるに到りました。人工知能で人が癒せるか？人と人の間にしか癒しはない！

その高専をやめ、早稲田大学創造理工学部に入学。下宿でものづくりに励み、積極的に人と交わりコミュニケーション能力を磨き、体の動きで感情表現をする分身ロボットOriHimeの開発を開始します。

OriHimeが遠隔操作により、目となり耳となり会話が出来る、感情表現のジェスチャーをする分身となります。以下の応用例が示されました。

無菌室で長期間病院にいなければならない子、登校拒否児童の子、単身赴任の方の学校や家にOriHimeを置いてもらい、操作すれば学校や自宅にあたかもそこにいるように交わることができる。寝たきりだがPCが使えたり通訳が出来る人が、OriHimeを用いて仕事をする。結婚式に病気などで出席できない人のためにOriHimeを式

場にもって行き出席したと同じように式に参加出来る。難病ALSで唯一動かせる視線で、OriHimeを操作して、家族・友人と交流できる。

実にすばらしく感動的なツールとなっています。応用は、いくらでもあると思われます。

当日は、残念ながらOriHimeを操作する方(はるか遠方にいる)がいらっしゃらなかったようで、動きませんでした。

最後に、吉藤さんは身体的な問題をこういうテクノジーを用い、必要としている人と周りの方々、作る側が協力し合って、今まで出来なかった人とのコミュニケーションが出来るようになるのを目指す。さらに研究を重ね、だれでも自分の意思で自分の会いたい人に会える、行きたいところに行け、社会に参加でき、ありがとうと言われ、死ぬまで人生を謳歌できる未来をつくるのが目標。会いたい人に会いたいを実現する織姫と彦星のプロジェクトを今後とも進めて行きたいと力強く述べられました。

最後に、吉藤さんに仲野日奈子さんから花束の贈呈がありました。

その後、吉藤さんのご講演を聴いての話し合いが各テーブルでなされました。

まとめとして、河合孝允先生(駒込学園)が、「癒しは、人と人の間にしか生まれない」という言葉がキーワードで、癒しロボットといくら向き合っても癒されはしません。人は魂として救われるのではなく、人ととの関係性において解決するし、救済が生まれてくる。明治の文人國木田独歩の「山林に自由存す。人間(じんかん)に孤独あり。」と、人と人の間に孤独があると言いかつた近代的自我が、ICT時代にこのような形で知能型ロボットを媒介として、そこには癒しのロボットではなく、私の分身です。それにより私がいろいろな世界や場所に行って自分らしく世界を知り、社会を知り、人生を知ることが出来るようになってきたということで、(吉藤さんのロボットが)単なる介護用ロボットではないということで感銘を受けました。との発言がありました。

先生のテーブルでの話の中では、登校拒否児童など学校・塾でスパイラルされる生徒さんたちの中に、可能性を持った子供たちがいるということを気づかされ、改めて学校教育の難しさ、今後の課題を発見させていただきました。と述べられました。



吉藤さんのロングコートは、4次元ポケットみたいに傘やペットボトルなどいろいろなものが出てくるユニークなものでした。が、詳細はカットします。

研修大会の第二部 場所を隣に移し、『懇親会』が午後6時20分から始まりました。

司会は、私塾ネット関東の中村庸彦先生(神奈川:中村学院)と長江広紀先生(神奈川:英数学院)です。

◇ 主催者御礼およびご挨拶:

私塾ネット会長 谷村志厚先生

(千葉:AIM学習セミナー)

と私塾ネットセンター理事長 湯口兼司先生(香川:湯口塾)のご挨拶。次期センター理事長の仲野十和田先生(東京埼玉:ナカジュク)をご紹介し、仲野先生の乾杯の発声がありました。

◇ ご来賓挨拶:私学代表として駒



↑エリア四国と↓エリア中国からの参加者の皆さん



→懇親会の
締めの謝辞
は鈴木事務
局長(兼副
理事長)
←エリア東
北新代表の
安藤さんと
後方は関副
理事長



湯口第4代理事長から仲野新理事長へバトンタッチ

込学園学校長 河合孝允先生、私塾代表 埼玉私塾協同組合理事長 坂田義勝先生、塾関連企業代表 月刊私塾界 山田未知之様 のご挨拶がありました。

◇ 参加私学紹介 各校1分、参加企業紹介

◇ 私塾ネットエリア便り 各エリアの先生方に登壇していただき、お言葉を頂く。

ネット関東名物、携帯番号・電話を使った、大抽選会。渡辺浩先生(埼玉:渡辺塾)、柳田浩靖先生(千葉:日米文化学院)、村社圭一先生(埼玉:向学館)の二世の会仲良しトリオが進行係。

賞品は、全国各地の会員が用意した、地方色豊かな、ご当地名物。いつも通り盛り上りました。

これまたネット関東の名物。今日の研修会の様子が入っ

たムービーが流されました。ついさっきの自分が映っていると、みな感心することしきり。作製は、鈴木学さん(デザインオフィスズキ)。短時間でムービーを作る技術はさすがです。

◇ 謝辞 私塾ネットセンター副会長

鈴木正之先生(東京:いぶき学院)

新たに私塾ネットセンター事務局長に就任したことを報告。昨今の野球・バトミントン界の不祥事を見るに付けて、学習する中での人間性を高めることが大切だと感じる。スポーツでは勝敗の先、学習では合格の先を見すえて、がんばって行きましょうという挨拶があり、鈴木先生の御発声での一本締めで、とどこおりなく第14回全国塾長・職員研修大会&懇親会が終了いたしました。

番外:2次会が、東京ガーデンパレスの「プラネット」というバーで行われました。親しい者同士三々五々、部屋いっぱいになるほど集まりました。遠くからいらっしゃいました先生方と、90分親しく飲んでお話しして、無事終了いたしました。いつもながら、お好きな方たちは、その後もどこかにいかれたようです。



懇親会会場風景

2016年 全国研修大会を終えて

研修部長 田中宏道

みなさんの活発で、嬉しそうな表情や真剣な表情が見られて、私はとても幸せでした。ありがとうございます！来年もぜひよろしくお願ひいたします！

以下のように、全国研修会のアンケートをとりまとめました。ご一読ください。

<Q1. 所属はどちらですか？>

私立学校(1人) 塾関連企業(6人)
私塾ネット(27人) その他(0人)

<Q2. 各コーナーや講演はいかがでしたか？>

Q2-1) 吉藤健太朗様のご講演

- ・非常によかったです。
- ・感動の一言です。いつか再度お話を聞きたいです。
- ・自由でダイナミックで熱い発想に感動しました。
- ・常識にとらわれず本質を追求することが大切であることがわかった。
- ・視点、発想の違いに驚くと共に感動しました。
- ・とても不思議な感覚でお話をうかがいました。
- ・「自分の生きる意味は何か？」を改めて考えるきっかけを頂きました。
- ・何のために人は存在するかを思考することが大切であるとわかった。
- ・「自分は何のために生きているのか」の本質を、たえず問い合わせ努力している姿が素晴らしい。
- ・すごいの一言。ロボットの話でなく人ととのコミュニケーションの話であることが驚きました。
- ・楽しくそして深いお話をありがとうございます。「人しか人を癒せない→コミュニケーション力が大切(=リアクションが大事)人により人は癒しを感じ幸せを感じる」改めてコミュニケーションの大切さを知りました。
- ・「コミュニケーションとはリアクションである」心にささりました。
- ・大変参考になるご講演ありがとうございました。「何のために」学ぶということを体現されていて、その生き方そのものが勉強になりました。また、不登校の生徒が講演を聞きに来てくれてとても満足していました。ありがとうございます。
- ・素晴らしい吉藤様。私は不登校の子供たちに勉強を教えることなど9年間ほどボランティアしていますが、本当に「したい事をすればよい」のですよね。でも能力の差が大きいので吉藤様の様にはいかない子が多いのですが…本当にありがとうございました。
- ・単なる人工知能ロボットではなく、心の交流を最優先にした活用方法で、セラピー的な役割を越えた素晴らしい発想だと思います。感動でした。
- ・人工知能をもったロボットが日々開発されている中、対面型ではなく分身型という形態で人ととのコミュニケーションが図れるように、それができない人達のため、人のために実践されていることの素晴らしさを感じました。
- ・本日はありがとうございました。オリヒメのことは以前TV番組で知っていました。印象に残っているのは子どもの笑顔です。オリヒメを通じてコミュニケーションが取れる。ほんの少しのきっかけで不登校だった子が学校へ通えるようになります。吉藤さんが作ったオリヒメが、使う人を幸せにしていたのが記憶に残っています。また今日の講演でも大変面白かったです。人ととのつながり、関係性、私たちも子どもたちと多く

のコミュニケーションを持ち子どもたちが本当に必要としているのは何か考えようと思います。

- ・テクノロジーのもつ根源的な意味を考えさせられる素晴らしいお話をしました。人が人であることの意味を考えずに存在するテクノロジーは、人を疎外するものであろう。普通であることの意味をもう一度問い合わせたい。
- ・とても素晴らしかった。彼はまだまだ進化していくだろう。何年か後にもう一度聞きたいと思いました。パフォーマンスもよかったです。生徒たちに聞かせたい話でもありました。
- ・不登校を重ねた後、ここまで様々なことを感じ行動し成果を上げができるんだなと思いました。不登校本人も苦しいが、周囲の人間、特に親としては将来に不安があると思います。安定した生活のための収入源はどのようにしたらよいかが親の心配事。
- ・発想の素晴らしさに感銘。やりたいことをやれるバイタリティーに若さの素晴らしさを思う。今後の活躍に支援を送りたい。
- ・常識的な視点をひっくり返す素晴らしい発想。先生困難が作り出した新しい発想が形になっている点に感銘。
- ・自分の能力を使って人のために何ができるか。生徒たちに(自分自身にも)問いかけたい課題でもあると思いました。「学歴」ということではなく、自分の一生で何をしたいか。とても考えさせられました。よいお話を本当にありがとうございました。
- ・これからの自分が生きていく指針、そのきっかけとなつた講演でした。吉藤さんは非常にかっこいいと思います。また機会があったらぜひ聞きたいです。
- ・生徒に寄り添うこと。生徒に考える時間を、自分と向き合わせる時間を与えることが、とても大事だと感じるきっかけとなりました。
- ・AI時代、人工知能…なんだか嫌だなと思っていたのだが、オリヒメの何と人間味のあること。ほっとしました。やはり背後に人間がいるのですね。
- ・ロボット作りのお話ということで、今なぜかなと思っていましたが、人と人とのつなぐことのロボットの意味という点で意味あることと思えました。また、吉藤さんの今につなげたお母さんや久保田先生の存在に大いに関心をもちました。私に振り返り考えるなら、私もまた久保田先生のような存在になりたいと思いました。
- ・プレゼンがあつという間でした。「塾」と直接関係のないところで「人の役に立つ」という点において共通していました。アプローチはまったく違うのに目的が同じでとても考えることがあり「世界は広い」と感じました。
- ・寝たきりの方が社会参加できることは理想的なことでし、生きることの意味を改めて考えさせられました。近い将来自分の家族にも同じような状況が訪れるかもしれないことから、他人事ではなく話を聞くことができました。
- ・最先端の技術を提供していながら、根本には困っている人のためにとの思いに共感しました。人の役に

- 立ちたいとの強い思いに胸を打たれました。
- ・本日のお話はコンピューターを経由して可能なコミュニケーションだと感じました。コンピューターがある生活から遠い所にいる人々「デジタル・ディバイド」の問題には対処できるのか？その人々は大きな割合で現在の日本にはいるのではないでしょうか。
 - ・人は人の間でしか生きていけないのとの思いを改めて感じました。不幸にも社会との係わりを絶たれた方がオリヒメを通し社会との接点を回復させていく様は大変感動的でした。私たちの仕事も子どもたちと向き合う中で互いに存在感を確認しあえる関係でありたいと考えました。
 - ・「心の車いす」。AIS→1万人に1人。なんで？の重要性。あたり前はあたり前ではない。癒しとは人と人の関係性。
 - ・不登校だったという生い立ち。分身ロボットを創るいきさつ。そしてその先にある、人のためという考え方。色々なこと、1つ1つのことがそれぞれ心に残りました。
 - ・自身の体験をプラスにとらえて様々な気付きを行動に移す。このことはとても大変なことだと思うが、それを人のためにという思いで実現していく姿に感動と驚きを感じた。
 - ・素晴らしい講演でした。自分の視点を見直すきっかけになると共に、人ととの関係について改めて大切なことを気付かせてくれたと思います。
- Q2-2)アイスブレークと「深める。ご講演を聴いて」
- ・1人1人の発言で講演を深めることができた。
 - ・隣人と深い話ができてよかったです。
 - ・グループをわざと変えさせるような仕組みがあってもさらに面白いのかなと思います。
 - ・今後の人工知能のあり方について考えさせられた。
 - ・同じグループに入り、吉藤先生のお話を引き続き聞くことができラッキーでした。
 - ・コミュニケーションの大切さを新たに確認できませんでした。相手に対する思いやりの気持ちが、話し掛けるきっかけを作ってくれるのではないかと思います。
 - ・各世代、各地域の様々な実例を知ることができました。
 - ・いろいろな意見にふれることができました。ありがとうございます。
 - ・四国の先生と同席しました。お二人の小さいお嬢さんがいるとのことで、その視点での話は興味深かったです。
 - ・初めて全国大会に参加させて頂きました。アイスブレークのお陰ですぐに話をすることができました。それぞれの先生方の意見を聞くことができて勉強になりました。ありがとうございます。
 - ・学びを振り返りまねてみたこと。さっそく行動に移すこと。そのような浅い質問に答えを出せるほど簡単な話じゃないと思います。吉藤先生の深い孤独感から今があるのではないでしょうか。安易な感想は書けないです。
 - ・話の着眼点に圧倒された。もっともっと自分も研さんしたい。
 - ・お互いにしっかりと考える時間を取れて非常に有意義でした。
 - ・人にとって社会とのつながりはとても大切。人は人でないと癒されない。分身オリヒメの役割がその役割を果たしてくれる。お互いの存在感を感じることで生きる力をもらえる。塾でも共通点がある。

- ・ステップ高橋先生、熊野先生と一緒に恵まれた席になりました。
- ・新鮮な気持ちになりました。自分以外の方々の意見をお聞きし参考になりました。勉強させて頂きました。
- ・同じ講演を聞いてもそれぞれに考え方や見方も違うことを学べるのでとても大切な時間だと思う。
- ・緊張するスタートであったが、人と人とのつながりはやはり大切だと気付かされました。

<Q3. 本日の研修会はいかがでしたか？>

Q3-1)満足度は？

とても満足(24人) 満足(4人) ふつう(0人)
やや不満(0人) 不満(0人)

Q3-2)よかった点はどこですか？

- ・講演。(5人)
- ・すべて。(2人)
- ・アイスブレーク。
- ・分身ロボット「オリヒメ」を直接見ることができ、また直接吉藤さんの講演を聞くことができてよかったです。
- ・テーマ通りの講演で素晴らしかった。
- ・会場のアクセス。設備。講演内容。
- ・講演の題を聞いた時は？と思ったが、お話を聞いて心の中でもう少し温めたいです。
- ・素晴らしい方(吉藤氏)を探してくれたこと。
- ・生きることの大切さを尊ぼうとすること。
- ・期待以上の講演。メンバーとの意見のシェア。
- ・ずっと落とし込めた時間がありました。シェアはとても大事だと思いました。
- ・記念講演。期待していなかったがまったく違っていた。役に立った。
- ・考えさせられることが何点もあったことが大きな収穫だと思います。
- ・「生きる」とは人に感謝されること。の意味の確認ができました。
- ・この時期でタイミングな講演だった。
- ・知らない世界や様々な気付き、発見をあたえていただけた。

Q3-3)よくなかった点はどこですか？

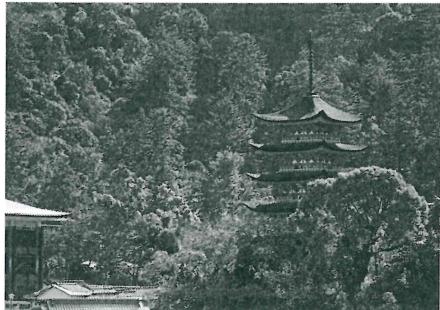
- ・スタッフが空けた席に取材の方々が座っていて、一般の方々が座れなかった。「メディア席」「取材席」を設定した方がよかったです。
- ・講演の時に参加されていた父兄や子どもさんに質問や感想をもらえればさらによかった。
- ・案内パンフなどの「ロボット」の話が不要。講演内容を誤解されると思います。
- ・スクリーンに映し出されている間に照明を落としていたので見えにくかった点。
- ・個人への発表、指名はほどほどがよい。

Q3-4)ご意見、ご質問

- ・これからも研修会を継続してください。
- ・この研修会のためにご尽力くださったことに感謝です。ありがとうございました。
- ・5/29(日)四国大会も参加します。
- ・本当に毎年ご苦労様です。有意義でした。
- ・教務的に役立つこともお願いしたい。
- ・いつも充実した研修会をありがとうございます。素晴らしい講師の人選に感謝します。
- ・田中先生をはじめ、実行委員の皆様ありがとうございました。
- ・次回もさらに期待しています。

表紙は語る

2009年10月の28号から2016年2月の53号まで続いた、写真とエッセイで表紙を飾る人気シリーズは、ともに城忠道さん(エリア中国)の手になるものだ。昨年7月の51号では、28号から39号まで3年分のフォトシリーズを掲載した。今号では40号から最終回までを一挙掲載し、城さんへのお礼に代えたいと思う。



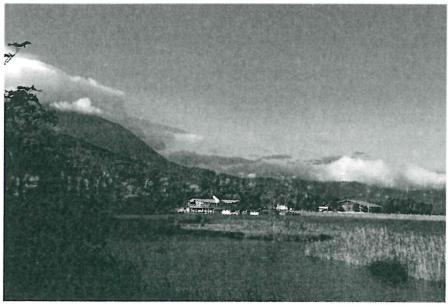
40号2012.10.25 秋色＜秋の色＞



41号2013.1.25 逍遙＜ぞぞろ歩き＞



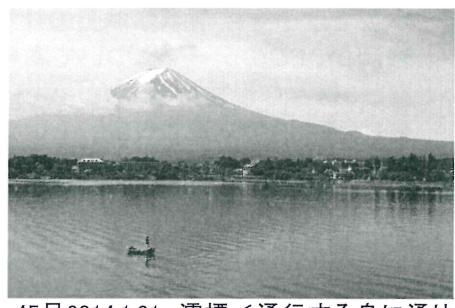
42号2013.5.10 木靈＜やまびき＞



43号2013.7.25 清爽＜清く爽やかなこと＞



44号2013.11.1 雌伏＜逆境に耐えながら時期を待つ＞



45号2014.1.31 濁標＜通行する舟に通りやすい深い水脈を知らせるための杭＞



46号2014.5.10 凌駕＜他をしのいで上に出ること＞



47号2014.7.18 鄉愁＜ノスタルジア＞



48号2014.10.30 奨緊＜差し迫って大切なこと＞



49号2015.2.5 要諦＜肝要な悟り＞



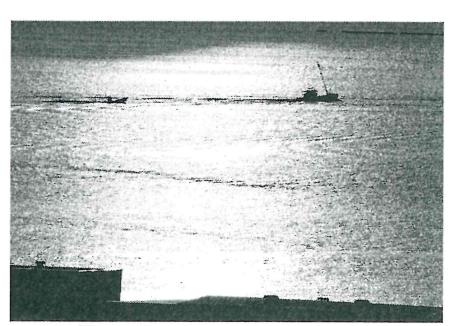
50号2015.5.15 赤心＜偽りのない心＞



51号2015.7.17 勁草＜風に強い草＞



52号2015.11.5 梓野＜山麓が遠く延びてゆるやかな傾斜をなすところ＞



53号2016.2.18 欲戒＜善を勧め惡を戒めること＞

城忠道先生有難うございました。お元気で「自分探しの旅」をお続けください。

アクティブラーニングってなに？

最近なにかと話題のアクティブラーニング型の授業、「思考を活性化する」学習形態とはいうが？

「基礎的な知識をもとに児童・生徒たちが主体的に学習に参加し、議論やグループワークなどで仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うための学習の形」と説明されてはいますが…

小宮山博仁（私塾ネット名誉会員）著（童心社刊）

『はじめてのアクティブラーニング　社会の？を探検』
3巻セット・みんなのまち・日本の暮らし・昔と今の日本

元全塾連会員・現私塾ネット名誉会員の教育評論家小宮山博仁さんが、この度アクティブラーニング実用教材を発刊された。出版元は絵本や紙芝居を出版している童心社だ。

本書では小学校中学年以上の社会科で扱う内容を、4人の児童と2人の教師が、60のテーマについて本・辞書、インターネット、統計資料、写真など、様々な形態の資料が「存在する」ということの発見から始め、調べ合い、話し合い、発表しあう、といった対話型の調べ学習が展開されている。

各ページには指導者（大人）へ向けた解説として「アクティブラーニングの視点」が付けられている。さらに、アクティブラーニングを進めるうえでの技法や考え方などをまとめたコラム「探検 発見 みんなの？」を各巻に配置している。

アクティブラーニング型の授業とは？

学習塾でのアクティブラーニングの活用法は？

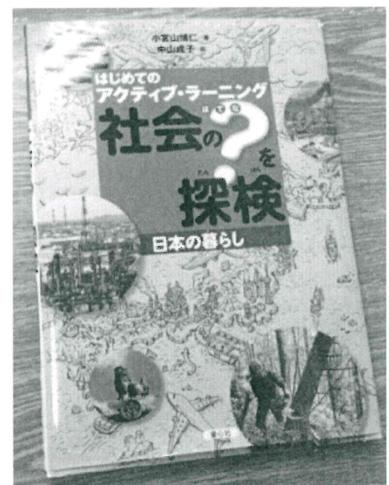
そんな疑問に小宮山先生がズバリ解答！

小宮山博仁先生、私塾ネット四国春の研修会に登場

日時：平成28年5月29日（日）午後2時～

会場：松山道後温泉「ふなや」

詳しくは当広報5ページ参照ください。



閑話休題

編集長 谷村志厚

4月の定期総会で湯口理事長から仲野新理事長にバトンが渡され、私塾ネット5代目理事長の誕生となった。2年2期計4年というのが私塾ネット理事長の任期なので、新陳代謝がきわめてはやい。今回はなんと12歳の若返り人事となった。しかし湯口さんが1面で書かれている通り、仲野十和田さんは私塾ネット創立以来の主力メンバーで経験も豊富だ。それに加えて副理事長の鈴木正之さんが、事務局長としてバックアップ体制を組むことになった。組織としては盤石だが、厳しい経営環境にある学習塾業界、次の10年に向けての地ならしも新執行部の命題となろう◆広報は本号から表紙デザインが変わった。これまでご好評をいただいた城先生のフォト&エッセイのシリーズに替わる企画はなかなか難しい。毎号編集のお手伝いを頂いている川崎の中村学院の中村直人さんの「実は家内がちぎり絵をやってまして」のひとつことから、今回の表紙は生まれた。直人さんは広報誌上句会のメンバー

であり、十亀さんのじっせん俳句の仲間でもある。そこで奥様の作画されたちぎり絵に俳句を付けていただくことにした。これから先どれほど続くかは分からぬが、読者の皆さんのご批評をいただきたいと思う◆先日千葉県の会員である長谷川洋男さんに誘われて、東京の河川橋梁を見学するクルージングに参加した。クルージングというとかっこいいが、なんのことはない釣り船を貸し切っての企画である。主催者は「勝どき橋をあげる会」という。かつて可動橋であった墨田川の勝どき橋を、なんとか動かしたいと夢見る親父どもの遊び心満載の会である。これまでに墨田川の屋形船は何度か経験していたが、今回は隅田川ばかりでなく、荒川、日本橋川、神田川と都内の主な河川を5時間かけてかけ巡るもの。参加者は橋梁土木の専門家の集まりとあって、主な橋ごとにパッチリと解説がつく本格的なものであった。ノンストップで半日以上、水上から東京を眺めていると、この町も水上都市であることに気づくのであった。何であれ視点が変ることで、物の評価も違ってくるものだと実感した次第だ。

私塾ネットセンター 事務局通信

事務局長 鈴木正之(いぶき学院)

◆事務局として

世紀末、私塾ネット発足に向けて話し合いが旧3団体で行われ、2001年私塾ネットが発足した。そして今年が15周年の節目を迎えた。初代理事長の口恭弘先生は昨年ご逝去された。私塾ネット関東は代表を仲野理事長が兼ねることになるが、役員は大幅に入れ替わり、仲野代表以外は発足に向けての話し合いに参加していない。センターの役員でも、当時を知る者は少なく私塾ネットは、間違いなく新しい時代に入ったと思う。

しかし、15年を経過した今でも、私塾ネットは進化の過程にあると私は考える。まだ、組織として不十分なところが多い。私の役割は、私塾ネットという組織の整備と継承。そして仲野理事長の下、会員に有益な研修の実施と情報の提供を行っていきたい。

皆さま、よろしくお願ひいたします。

◆エリアの行事に参加しましょう！

私塾ネットは全国組織、全国のエリアで今年は研修会等が開催される。4/17にセンターの全国研修大会。5/29に四国の研修会。9/4に東北と関東の合同研修会（北海道も一緒かも？）。10/23に関東の私学情報交換会（私塾ネットの15周年記念として実施？）、12月に四国の研修会。その他、中国でも研修会が開催されるかもしれない。他のエリアの研修会に出向き、多くの先生方と交流を深められることが、全国組織の私塾ネットのメリットである。事務局として各エリアの行事予定を発信していきたい。

◆長原糸恵先生の娘さん

5月8日（日）、私塾ネット関東の「拡大役員会＆懇親会」に、ついにあの超大物の新入会員が参加！関東では知らない塾人がいないのではないか（？）と思われる、東京私塾協同組合事務局の長原糸恵先生だ。

懇親会の席でご一緒させていただいた時のこと。

「長原先生、娘さんからフェイスブックの友達リクエストが来てビックリしましたよ。」、お母さんとは友達になつてないのに、面識のない娘さんからリクエストが来たのは確か2年ほど前。お母さんと友達になったのは1年ほど前だから不思議なリクエストだった。プロフィールに、「母長原糸恵」と書いてあったので友達リクエストを受けたのだ。生年月日1970年10月12日、既婚となっていた。その時に監物先生にもリクエストが来た。2人で相談して、「長原先生の娘さんなら友達になりましょう」ということで、めでたくお友達になったのだ。

「長原先生、娘さんからフェイスブックの友達リクエストが来てビックリしましたよ。」「あら、娘はいないわよ。」「だって、フェイスブックで友達になっていますよ、リクエストが来て。」スマホで調べて、「ほら母長原糸恵。○○高校に在学していました。名前が長原桃果さん。」と確認。

すると長原先生、「あっそれ、それは犬よ。」

ずっと、娘さんと思っていたのに、犬だったとは・・・。ちなみに桃果さんの友達は私と監物先生ともう1人だけ。どうして、愛犬に友達として選ばれたのだろうか？

ちぎり絵歳時記①（花しょうぶ）

鳥の鳴く谷戸に一叢花しようぶ（直人）



長きにわたつて広報の表紙を飾つてきたのは、エリ ア中国の城忠道先生の写真とそれにそえるエッセイであつた。大変ご好評をいたいた企画であつたが、お申出により前号の「歎戒」を最終回として、一連のシリーズに終止符を打つことになつた。

さて、今号から表紙に花を添えていただくことになつたのは、川崎市の中村学院の中村直人さんと奥様 中村光江さんである。光江さんが趣味で続けられるといふちぎり絵に、直人さんがその絵を詠んだ俳句を添えるという趣向。当初は俳句を添えるという提案に難色を示された。しかしながら、夫唱婦隨こそ私塾の本來と口説きおどし、第1回の日の目をみることになつた次第だ。

たたか明るさが差したようである。

地」とほぼ同義である。谷状の地形にある里山の初夏の風景だが、鳥の鳴き声、おそらくウグイスであろうか、音声が添えられることで、閑静な過疎の里山にも

掲句の「谷戸」は「やと」と読み、「谷津」「谷

(谷村)

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校
東京都渋谷区本町3-2-2

江戸川学園取手中学高等学校
茨城県取手市西1-37-1

東洋高等学校
東京都千代田区三崎町1-4-16

桜丘中学高等学校
東京都北区滝野川1-51-12

聖徳大学附属女子中学高等学校
千葉県松戸市秋山600

麹町学園女子中高等学校
東京都千代田区麹町3-8

春日部共栄中学高等学校
埼玉県春日部市上大増新田213

東京立正中学高等学校
東京都杉並区堀ノ内2-41-15

八雲学園中学高等学校
東京都目黒区八雲 2-14-1

関東第一高等学校
東京都江戸川区松島2-10-11

武蔵野中学高等学校
東京都北区西ヶ原4-56-20

和洋国府台女子中学高等学校
千葉県市川市国分4-20-1

新渡戸文化中学高等学校
東京都中野区本町6-38-1

文京学院大学女子中学高等学校
東京都文京区本駒込6-18-3

東洋大学付属京北学園
東京都北区赤羽台1-7-12

大森学園高等学校
東京都大田区大森西3-2-12

東京成徳大学中学高等学校
東京都北区豊島8-26-9

日本工業大学駒場中学高等学校
東京都目黒区駒場1-35-32

青稜中学高等学校
東京都品川区二葉1-6-6

東京女子学園
東京都港区芝4-1-30

駒込中学高等学校
東京都文京区千駄木5-6-25

愛国中学高等学校
東京都江戸川区西小岩5-7-1

安田学園中学高等学校
東京都墨田区横綱2-2-25

村山サンドー先生
TEL03-3376-2244

竹澤 賢司先生
TEL0297-74-8771

石井 和彦先生
TEL03-3291-3824

品田 健先生
TEL03-3910-6161

川並 芳純先生
TEL047-392-8111

大野 博人先生
TEL03-3263-3014

宇野 穎弘先生
TEL048-737-7611

藤井 教戒先生
TEL03-3312-1111

横山 孝治先生
TEL03-3717-1196

副田 康孝先生
TEL03-3653-1541

鍋木 文夫先生
TEL03-3910-0151

西山 紀子先生
TEL047-371-1120

藤井三恵子先生
TEL03-3381-0196

嶋田 栄司先生
TEL03-3946-5301

杉原 米和先生
TEL03-5948-9113

矢部 一紀先生
TEL03-3762-7336

野中 修也先生
TEL03-3911-2786

河村 文夫先生
TEL03-3467-2130

伊東 充先生
TEL03-3782-1502

実吉 幹夫先生
TEL03-3451-6523

河合 孝允先生
TEL03-3828-4141

高橋 英夫先生
TEL03-3658-4111

金子 直久先生
TEL03-3624-2666

日本音楽高等学校

東京都品川区豊町2-16-12

大成高等学校

東京都三鷹市上連雀6-7-5

立正大学付属立正中高等学校

東京都大田区西馬込1-5-1

上野学園中学高等学校

東京都台東区東上野4-24-12

二松学舎大学付属高等学校

東京都千代田区九段南2-1-32

村田女子中学高等学校

東京都文京区本駒込2-29-1

自由学園(中等部・高等部)

東京都東久留米市学園町1-8-15

帝京中学高等学校

東京都板橋区稻荷台27-1

京華学園

東京都文京区白山5-6-6

千代田女学園

東京都千代田区四番町11

日出中学高等学校

東京都目黒区目黒1-6-15

共栄学園中学高等学校

東京都葛飾区お花茶屋2-6-1

中村中学校・高等学校

東京都江東区清澄2-3-15

酪農学園大学付属ときわの森三愛高等学校

黒畠勝男先生
TEL011-386-3111

啓明学園

東京都昭島市拝島町5-11-15

伊庭 崇先生

TEL03-3786-1711

岡田 政雄先生

TEL0422-43-3196

今田 正利先生

TEL03-6303-7683

高橋公美子先生

TEL03-3842-1021

館野 宏先生

TEL03-3261-9288

二渡 道雄先生

TEL03-5940-4187

更科 幸一先生

TEL042-422-3111

上瀧 栄治先生

TEL03-3963-7734

今野 巍先生

TEL03-3941-6493

長尾 和雄先生

TEL03-3263-6551

大江 律夫先生

TEL03-3492-3388

松宮 博先生

TEL03-3601-7136

富田 義道先生

TEL03-3642-8041

㈱創開コミュニケーション

小林 和光様

TEL04-7164-6511

㈱私塾界

山田未知之様

TEL03-3987-0838

豊島区東池袋1-39-1三善ビル

板橋 玲様

TEL03-5425-6534

㈱S R J

鈴木 学様

TEL04-7164-8276

千葉 貴広様

TEL04-716-5494

横浜市中区山下町25-15 フューチャー山下

齊藤 高志様

TEL045-226-5494

㈱エドベック

千葉県柏見町2-11-11 峰ビル3F

TEL03-5275-2101

小池 仁様

TEL090-1451-9757

愛媛県今治市大西町別府2380-1

栗原 慎吾様

TEL03-6892-1374

㈱POPER

倉本 彩香様

TEL06-6360-6522

東京都渋谷区桜丘町3-16

堺 健司様

TEL090-2400-9515

㈱イトクロ

大阪市北区神山町1-15扇町公園ビル5F

L T S 株式会社

千葉県柏市花野井1925-31